

2023 年度 総合研究所特別研究員 研究活動報告

氏名	清田 政秋
研究テーマ	本居宣長の「物のあはれ」説と仏教の哲学的思考との関連性の追究
研究概要	本居宣長の〈物のあはれ〉説は、多くの先行研究がある中で未解明の問題が残されている。その説の成立と藤原俊成の歌との関連、「物の心・事の心」とは何かの問題等である。本研究は「物のあはれ」説と仏教哲学との関連を明らかにすることによって、それら未解明問題に対する新たな考え方を提示する。

1. 研究活動の概要と研究成果	<p>本年度は、本居宣長の〈物のあはれ〉説の成立に、藤原俊成の「恋せずは人は心もなからまし物のあはれも是よりぞ知る」の歌、及びその歌論が拠り所にした天台宗の『摩訶止観』の仏教哲学思考が大きく影響したことを明らかにした前年度の研究を踏まえて、〈物のあはれ〉説そのものにある哲学思考を追究した。宣長は、仏教から「心とはいかなるものか」、「心は対象世界とどのように繋がっているか」の哲学思考を学んだ。その思考は、宣長が青年期によく読んだ『徒然草』・『沙石集』・『摩訶止観』等に見ることができるものである。その思考に基づいて〈物のあはれを知る〉とは、感情を通した対象事物世界の捉え方であるという考え方を確立し、それは『古事記伝』まで引き継がれ、宣長の学問に一貫する哲学思考となった。この研究成果を難解な仏教哲学用語を使わずに分り易い形にして新たな論文に纏めようと努力したが、説得力ある論文にすることができなかった。</p>
2. 学術論文・学会発表等	<p>〔論文等〕 学術論文:単「本居宣長「物のあはれ」説の成立と仏教の哲学的思考」『宗教研究』97 巻 1 号 通号 406 号、日本宗教学会（2023 年 6 月刊行、査読有） 〔発表〕 研究発表:単「本居宣長と『徒然草』・『沙石集』・『摩訶止観』の哲学思考—「物のあはれ」の説をめぐって—」、佛教大学大学院中間発表会（仏教文化部会）（2023 年 7 月 5 日）</p>
3. 今後の課題	<p>宣長は〈物あはれを知る〉とは「物の心・事の心」を知ることであると言う。この「物の心・事の心」とは何かを明らかにすることは〈物のあはれ〉の説を理解する上で極めて重要である。物の心・事の心を物事の本質と把握する先行研究が多いが、物事の本質と捉えるよりも、過去の人々がその物事をどのようなものと思っただか、またその物事にどのような感情を抱いたかの共同思考・共同感情として捉えた方がよい。その共同思考・共同感情が物事に密着しており、人は物事に触れる時、その共同思考・共同感情を知覚し、共同感情に基づいて感ずるのである。そのような考え方が『古事記伝』まで引き継がれ、宣長の学問に一貫するものになった。2023 年度に取組んだ研究をより深め、分り易く説得的に論証することが課題である。</p>